

# ゆりかまめ yurikamome



早朝、天筒山から見た敦賀港の景観

巻頭言 一般社団法人 敦賀観光協会 会長 池田 裕太郎

この度、敦賀観光協会会長に就任させて頂きました池田裕太郎です。今後とも宜しくお願いいたします。

敦賀の観光事業にご理解とご協力をいただき、県内外からお見えになった観光客の方々への観光ガイドや敦賀鉄道資料館の管理など幅広く活動を行っていただき、心より感謝しております。

とくに最近では「敦賀は「みどころ」満載」の観光ガイドブックの冊子をお作り頂きました。観光ボランティアガイドつるがさんのご経験を生かした素晴らしい冊子だと思います。

現在はまだコロナ禍ではありますが、いずれ多くのお客様が敦賀に来ていただける時が来ますし、2024年春には北陸新幹線敦賀開業が予定されています。北陸新幹線敦賀開業はゴールではなくスタートです。我々敦賀観光協会と観光ボランティアガイドつるがさんをはじめとする市内各団体、そして観光のプレイヤーの皆さんと連携させていただきなごら敦賀の良さを多くのお客様へお知らせし、敦賀のファンが増えて笑顔で訪れて頂けるような環境を創り上げたいと思っています。

今後ともお力添えをいただきたいと思います。



この度、敦賀観光協会会長に就任させて頂きました池田裕太郎です。今後とも宜しくお願いいたします。

観光ボランティアガイドつるがの皆さんには平素より皆様には平素より



平成二十二年三月、JR北陸線敦賀―長浜間開通三〇周年祭(仮称)の準備委員会が立ち上がりました。「周年祭を契機に

市民活動を展開し、行政や商工会議所にも働きかけ、多くの方に参加いただく。また、関連地域との連携を図り、敦賀の活性化を図りたい。イベントありきではなく、キャンペーンそのものを目的とし、広く市民参加を呼び掛けたい」とこのような趣旨のもと市民有志が集まり市民活動が動き始めました。

そして、平成二十三年十二月、故田中完一先生を会長に、現在の「敦賀・鉄道と港」まちづくり実行委員会が発足しました。

あれから一〇年。敦賀市のキャッチフレーズ「鉄道と港」も定着し、統一テーマを掲げることにより、行政、民間の街づくり活動も活況を呈してまいりました。

このような取り組みの中、北前船をテーマにした日本遺産と鉄道遺産をテーマにした日本遺産の認定を、続けて受けることができました。これも偏に官民の共同活動の賜と大変うれしく思います。

周年祭も一周年し、新たに北陸新幹線敦賀開業に向けた、次のステージ展開に場を移していくこととなります。実行委員会はもとより、行政や民間の皆様今後の活躍を期待するとともに、益々の連携強化、近隣市町との連携を図り、市民一丸となって、この敦賀市の賑わいを創り出していきましょう。

## INFORMATIONs

### ☆敦賀市立博物館

#### 特集展示

「天狗党～武田耕雲斎からの手紙～」

令和3年7月7日(水)～8月3日(火)

市立博物館に寄託・寄贈されている天狗党に関する資料が展示されます。

また、歴史ウォーキング「天狗党ゆかりの地を歩こう」の開催も

7月17日(土)、7月24日(土)の2回、予定されています。

### ☆若狭国吉城歴史資料館 (三方郡美浜町佐柿 25-2)

#### 夏季企画展

「水戸天狗党と美浜～佐柿で過ごした浪士たち～」

令和3年7月31日(土)～10月17日(日)

佐柿には天狗党ゆかりの准藩士屋敷跡が残っています。

佐柿ゆかりの志士で、渋沢栄一と同じ時代を生きた明治の実業家、山本直成も紹介されます。

武田耕雲斎陣羽織  
松原神社所蔵  
敦賀市立博物館寄託



## ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス(敦賀観光案内サイト漫遊敦賀)からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

FAX 0770-22-8197

<http://www.turuga.org/index.html>

## ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが TEL 0770-21-0056

敦賀観光協会 TEL 0770-22-8167

## 編集後記

早朝6時の天筒山山頂から見た敦賀港は、大きくゆつたりと静かにその姿を横たえています。山々の間から朝靄が静かに立ち昇り、ゆつくり眠りから覚めていくようです。敦賀と長浜間の鉄道が部分開業した当時の景色とも大きく様変わりしていますが、天筒山はさらに古くからずっと変わらず敦賀港の景観、敦賀の発展を見つめてきました。

縄文時代の人々の営み、氣比神社の建立、渤海使の往来、金ヶ崎・天筒山を駆け回る戦国時代の武士の雄叫び、ヨーロッパから難を逃れた人々の歓喜の声、戦後の発展、敦賀港の開港100周年の祭典など様々な風景が見え、声が聞こえます。これからも多くの景観を刻むことでしょう。

金ヶ崎・天筒山・中池見の遊歩道は、歴史も自然も展望も満喫出来る「金ヶ崎トレイル」として整備されています。早朝から夕方まで、健康やリフレッシュのため、グループで、ご夫婦で、お一人で、多くの方が楽しんでおられます。そんな天筒山からの敦賀港の景観です。

(将)

# 「日本遺産」 鉄道のキセキ ④

敦賀市、南越前町、長浜市にまたがる旧北陸線沿いの鉄道遺産の魅力伝えるストーリー『海を越えた鉄道く世界へつながる鉄道のキセキ』が昨年6月、「日本遺産」に認定されています。今回は「敦賀港の景観」を紹介いたします。

1882年（明治15年）3月10日、蒸気機関車が汽笛を鳴らして金ヶ崎停車場から出発していきま。柳ヶ瀬トンネル部を除いた敦賀・長浜間を結ぶ敦賀線の部分開業の始まりです。敦賀側に機関車3両、客車3両が配置され、金ヶ崎駅とトンネル手前の洞道口駅の間を往復しています。

金ヶ崎駅で乗車した大きな荷物を持った大勢の乗客が洞道口駅で下車、峠を歩いて越え、柳ヶ瀬駅から再び乗車して長浜に向かいます。明治の人々は健脚、1時間もあれば峠を越えて行きます。

3月の部分開業開始から6月末までの三か月間の金ヶ崎停車場の乗車人員は、「73000人に達す」との記録もあり、鉄道による敦賀の大きな発展の兆しがうかがえます。

1884年、柳ヶ瀬トンネルが4年の歳月をかけて完成、敦賀金ヶ崎・長浜間が鉄路で結ばれて直通運転を開始します。機関車10両、客車34両、貨車134両が配置されまし



鉄道開通後の敦賀港の景観  
手前左に金ヶ崎停車場を出発する客車。



2021年6月の敦賀港の景観  
穏やかな敦賀港、手前中央の赤レンガ倉庫。

た。その後、敦賀港は交通の拠点として益々その重要度を増していきます。

外国との貿易にも着目していた敦賀の商人大和田荘七が銀行を設立（1892年）し、港湾の整備や貿易の促進など敦賀の港と敦賀の発展に尽力します。一方、敦賀から北に向かつての鉄道の計画も具体化し、1896年には敦賀・福井間が開通します。

鉄道輸送の発展により海上輸送が停滞しますが、敦賀商人の取組みにより1899年

に敦賀港が国際港としての指定を受けます。敦賀とウラジオストクを結ぶ定期航路が就航し、敦賀港に本格的な国際港時代が到来します。1904年、ウラジオストクを発着地とするシベリア鉄道が開通し、敦賀・ウラジオストク間の定期航路を通じて、敦賀港経由がヨーロッパへの最短のルートとなります。

1912年（明治45年）になると、東京（新橋）と敦賀の金ヶ崎駅を結び、ウラジオストクを経由してヨーロッパまで一枚の切符で渡航できる

「欧亜国際連絡列車」が運行します。まさに敦賀港が東洋の波止場として世界にその名を広めます。

1913年11月、敦賀港の第1期修築工事が竣工し、栈橋にはモダンな建物が四棟並び、その一つが敦賀港駅となります。

第一次、第二次の世界大戦の暗い時代、敦賀港は兵士出兵の基地にもなりますが、人道の港としてポーランド孤児の救済船が入港し、杉原千畝の発行したビザをもってナチスの迫害を逃れたユダヤ人が上陸するのこの敦賀港です。その後敦賀港は多くの著名な外国人や日本人の渡航者で賑わいを見せてきました。

敦賀線の金ヶ崎と長浜との部分開業から始まり、「欧亜国際連絡列車」の運行、その後の時代に応じた港の変遷、それぞれの時代で変わってきた敦賀港の景観、まさしく「海を越えた鉄道 く世界へつながる 鉄道のキセキ」を積み重ねています。  
(森 将臣)

## 観光ボランティア ガイドつるが 定期総会

4月24日、観光ボランティアガイドつるがの令和3年度定期総会を開催しました。

会場の換気、ソーシャルディスタンス、マスクの着用、入り口での検温などコロナ感染症対策を確実に実施し、開催しました。当初、来賓の方もお招きし、ご挨拶をお願いする予定でしたが、会員のみの参加で開催しました。

総会では、令和2年度の事業報告及び会計決算報告、会計監査報告、令和3年度の事業計画及び予算、役員改選、また、総務部の事業内容を見直し、ガイド手配業務を独立させることとして「ガイド事業部」を設置することについても慎重な審議を経て全ての議案が承認されました。

令和3年度、新たな体制、改選された役員により積極的な活動を実施してまいります。



## ガイドの活動と楽しい出来事

ガイドつるがの会員は、観光客の皆さんへのご案内等を行いながら、楽しい出来事も沢山経験しています。

今回は、松村由利子会員のエピソードをご紹介します。

初夏を思わせる光溢れる日。「日本遺産・鉄道のキセキ」スポットへ、バスでお越しのお客様方をご案内いたしました。今ではもう廃線になってしまった所へさしかかった時、「今、皆様が渡る線路は、明治45年、与謝野晶子さんがパリにいる夫鉄幹を追って乗った、欧亜国際連絡列車の走っていた線路ですよ！」と言いますと、ぐるりと振り返って「えっ！これが？」 「あの晶子さんが？」 などと口々におっしゃってたいへん感慨深げなご様子。

実はこれは、先に、会員メンバーから聞き、インパクトのある案内だなど思っており、この時に実行したのでした。するとまさにその通りのことになって、私は大感激でした。「おもてなし」とは、心に残るご案内をすることでもあるでしょう。帰り際にお客様の



中から「忘れんぞ！晶子さんの乗った列車がこの線路を走ったこと！」と呼び掛けてくださいます。私はもう心から嬉しくなり、お客様方と線路近くでひとしきり話に花を咲かせました。

会員それぞれが、今日まで積み重ね培ってきたものは、たいへん貴重です。そうした「ステキな案内」を生かされたこと、それが私には何よりも嬉しいことでした。

お客様方をお見送りして、ふと見上げた青空のなんと美しいこと。さわやかな潮風に吹かれ深く息を吸って、「ああ、楽しかった！」と思えました。  
(松村由利子)

## 「敦賀は『みどころ』満載」出前講座

観光ボランティアガイドつるがは、観光客の皆さんに敦賀の見所をご案内するとともに、北陸新幹線の敦賀開業も見据え、市民の皆さんにも敦賀の見どころを観光客にご説明いただきたいと取り組んでいます。今年度は、皆さんの会合などにお伺いして敦賀のみどころをご紹介します。「出前講座」に積極的に取り組んでいます。

観光ボランティアガイドつるがでは、令和元年度に実施された「小さな親切」運動敦賀支部の「あったか運動」事業に参画し、市民の皆さんが観光客にお薦めの観光名所を説明いただけるよう「敦賀の『みどころ』ガイドブック」を作成し活用してきました。

そして昨年度、このガイドブックの内容を一層充実した「敦賀は『みどころ』満載」を作成しました。

本年度、これを用いて、町内会や老人会はじめ各種団体、小中学校など皆さんのところへ「出前講座」を実施し、敦賀の魅力を市民の皆さんからも発信していただきたいと取り組んでいます。

6月下旬には、神楽町一丁目の多目的広場「かくるる」において、地域で活動されて

いるTHAPの皆さんに出前講座を行いました。皆さんは敦賀の見どころは既にご存じですが、裏話などを紹介すると、へーっといった声も上がり、熱心にメモされていました。とても積極的に有意義な出前講座の時間になりました。

「敦賀は『みどころ』満載」の冊子は、出前講座の開催時に説明資料として活用し、参加者の皆さんにお持ち帰りいただいています。

なお、出前講座に参加できない方で観光名所の説明資料を希望される場合には、「敦賀の『みどころ』ガイドブック」を差し上げています。

出前講座や説明資料のご希望は、裏面掲載の「ガイドつるが」の連絡先までお気軽に。



THAPの皆さんへのお出前講座



「敦賀は『みどころ』満載」